

地域包括支援センター名：湘南地区地域包括支援センター すみれ

資料4-2-⑥

1. 今年度の重点的な取組方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
1-1. 市の方針に即している	4	茅ヶ崎市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の方針に即した計画を立て、市の方針や政策を踏まえ計画の作成及び事業実施を行った。	4	市の方針や包括の事業計画に沿って各事業等に取り組んでいる。	
1-2. 長期的な視点を踏まえた上で今年度の取組を明確にしている	4	地域包括ケアシステム構築の一端として、地域ケア会議を5回開催。地域住民の見守り支援体制を促進する為の『湘南みまもりタイ』を作成。地域に対して回覧や掲示板に掲示して周知し、住民の関心が高まっている。	4	地域ケア会議や「湘南みまもりタイ」の作成等を通じ、住民や関係者等からの包括すみれへの相談が増加するなど包括の認知度が高まっている。	
2. 組織の運営体制の具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
2-1. 組織体制並びに管理責任者及びトレーナーの役割が明確である。	4	三職種及び管理者、管理責任者を確保している。それぞれの役割を互いに認識し、相互に組織体制が明確化され、指示命令管理体制が一貫されている。	4	管理者が包括のキーマンとしての機能を果たしている。スーパービジョンが、包括内及び管理責任者への報告、指示伺いや法人への働きかけにも生かされている。	
2-2. 切れ目なく三職種を配置し、業務を継続する体制がある	4	異動や退職者がなく、経験豊かな職員を配置し地域内でも信頼関係の構築を図ることができた。	4	28年度は離職者はいなかった。地域のサロン等に包括職員が交代で行くことにより、包括の職員全員が地域の方々に周知されつつある。	
2-3. 適正な職員配置の方針があり、業務量に応じた人員数が確保されている。	4	経験豊かな職員を配置し、業務量に対し三職種だけでなく、主任介護支援専門員の資格を持つ看護師を非常勤で配置することで、人材の強化を行っている。	4	非常勤職員をプラスで配置し、増加している相談に対応している。(総合相談件数27年度:1,299件 28年度:1,526件)	
3. 職員間の連携に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
3-1. 支障なく業務を遂行するための職員間の連携体制がある。	4	三職種間連携を前提とし、毎朝のミーティングで情報の共有と方針検討を行い、相乗効果を生んでいる。	4	初回対応は原則2名体制としている。朝礼等で各職種の専門性を活かした意見交換を行うと共に情報を共有し、基本的な相談は、全職員が対応できるようにしている。	
3-2. 三職種の専門性を活かし、チームで事業を実施している	4	職種間の専門性を尊重し、情報の共有と適宜ミニカンファ等を実施。対応方法等を個人ではなくチームとして判断している。	4	密な意見交換により、包括の業務(事例対応、教育等)が効果的に運営されている。福祉相談室との連携や役割分担等に関する方針があり連携協力体制が機能している。	
4. 公正・中立性確保のための具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
4-1. 公正・中立性を確保するための根拠がある	4	介護予防プランの委託先やサービス事業所の紹介先が偏らないよう地域の実情を踏まえ、事業所一覧を提示している。一覧表にて毎月管理する事で、公正中立に事業が実施出来るように取り組んでいる。	4	27年度の対応を踏まえ、公正中立の確保のため包括全体で公正・中立確保への取り組みを強化している。社会資源の一覧表を作成し対象者に提示している。	
4-2. 職員に対する意識啓発の機会を設けている	4	職員間で新しい事業所の情報などがあつた場合、朝礼などで情報共有し、ケアプラン作成時等に役立てている。一覧表の内容については全職員に周知し、公正中立を意識づけている。	4	一覧表を活用し、対象者に提示するとともに、朝礼等でケアプランの委託等についての情報交換を行うなど包括全体で公正・中立に関して意識を高めている。	
5. 緊急時対応の具体的方針(災害時含む)					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
5-1. 緊急時の体制が整備され、機能している	4	災害時災害対策マニュアルが整備され、職員も把握している。毎年9月には災害時伝言ダイヤル使用を訓練している。	4	緊急時に持ち出す書類等に関するヒアリングに適切に回答していた。また、パソコンの管理等は業者に委託している。	
5-2. 災害時の行動基準が明確である	3	災害時の行動基準をマニュアルの中に定め全職員が把握している。緊急連絡網も整備し常時確認出来るように添付してある。	4	誤報により緊急時発生を経験した結果、机上での体制整備の課題に気づくことができ、改善に向けた話し合いを包括内で行った。	
5-3. 防災・減災に向けて日常的に取り組んでいる	3	BURANCH会が主催する年2回の消火訓練や避難訓練に参加し、避難行動の理解やルートなどの確認出来ており、防災や減災の取り組みを行っている地域の防災訓練にも積極的に参加している。安心カプセルの活用を周知している。	4	防災マップが東日本大震災時に有効であったことを踏まえ、その更新を定期的に行っている。災害時に包括ができること、限界についても関係者等に機会を捉え伝えている。	
6. 個人情報保護に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
6-1. 個人情報の取り扱い方針が規定されている	4	個人情報保護マニュアルを整備している。介護保険システムのASPキーでの保護や、キャビネットの施錠等必要な管理を行っている。保存期間を過ぎた文書を法人の規定に従い、適正に処分している。	4	介護給付については5年それ以外は10年との規定にそって、個人情報は法人内の医療情報としてシュレッダーを徹底している。	
6-2. 職員に対する意識啓発の機会を設けている	4	年6回の法人研修会にて個人情報保護に関する研修を全職員が受けている。職員手帳を携行しており、所定の場所に職員ハンドブックを配置し、全職員が随時閲覧できるようにしている。	4	個人情報は出来るだけ外部に持ち出さない努力をしている。また、時間外等で持ち出す場合には、対応の仕方を明確にしている。	
7. 苦情・要望に対する具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
7-1. 苦情・要望の対応のための適切な体制が整備され、機能している	4	苦情対応マニュアルを作成し、苦情や要望に関する相談を受けた際には大小関係なく苦情相談記録用に記入し、必要に応じて全職員で再発防止策を検討し、共有している。	4	包括すみれに関する苦情はなかった。包括としては苦情として介護認定結果、介護保険制度に関すること等8件を記録していた。	
7-2. 苦情・要望の対応のための職員の対応力向上に向けた取り組みがある	4	苦情や要望に関する内容を職員間で吟味し全職員で理解し、改善にあたる。苦情対応に関する法人内研修があり全職員受けている。	4	上記について、包括では解決できないことも苦情の拡散拡大にならないよう、どのように対応していけば良いか話し合うなど共有している。	
総合評価(平均点)	3.88		4		#DIV/0!

総合評価(自己) 今年度は、自助、互助を意識した運営を意識的に実施してきた。地域課題を話し合う地域ケア会議を5回、住民の意識啓発とMCI予防と住民の交流機会の提供を目的とした、『すみれカフェ』を年12回実施した。自助に対する取り組みとしては、『すみれカフェ』の開催や、サロン活動(中島ふれあいサロン、松尾高齢者サロン・長命会・いこいの部屋など)への協力(血圧測定やちがさき体操、ストレッチなど実施)をしている。互助としては、孤独・孤立を防ぐ取り組み『湘南みまもりタイ』の作成と地域への周知を行った。また、湘南地区内で開催されている自主防災訓練にも参加し、地域体制を把握することが出来ている。地域活動団体(民生委員児童委員協議会・湘南地区社会福祉協議会、湘南地区ポラセン・まちぢから協議会・しろやま会議)の主催する会議への参加出来るようになり、情報交流の機会が増え、地域に根差した支援体制を形成することが出来てきている。

運営協議会の意見

総合評価(市)

運営状況レベルの内容	評価点
求められる評価基準を満たしており、具体的成果が見られる	4
求められる評価基準を満たしている	3
求められる評価基準を満たしていないが、取り組みは行っている	2
求められる評価基準を満たしておらず、取り組みも行っていない	1